

文化にふれる 七宝区域みてあるき

SHIPPO AREA



七宝焼 花鳥文大花瓶
明治30年代 高さ約1.5m
七宝焼アートヴィレッジ蔵

条里制 区画の 名残りを残す地域



12 弓掛の松

下田の旧佐屋街道沿いにある。源義経が兄頼朝の命により京へ向かう途中、軍勢を休ませた際に弓を掛けたといわれている。現在は五代目の松。



11 下之森オコワ祭

毎年2月11日に下之森の八幡社に伝承されている神事。わらのこも編みでオコワを入れた樽を包み、境内の石にたたきつけてできたオコワを参拝者が奪い合い、厄除けや五穀豊稔を祈願する。





1 七宝焼アートヴィレッジ

尾張七宝焼の歴史や製作道具を展示。七宝焼の制作工程を見学できるゾーンや体験ゾーンがあり、広大な芝生広場を備えている。七宝焼製品の販売もある。

月曜休館 ☎052-443-7588
あま市七宝町遠島十三割2000番地

2 七宝町のラカンマキ

遠島の八幡神社境内にある。樹齢300年以上を経ているため、昭和30年に県の天然記念物に指定されている。



3 七宝焼起原碑

遠島の八幡神社境内にある。明治20年、遠島村をはじめ近隣の村々の七宝製造業者の団結の証として建立された。

4 林庄五郎翁顕彰碑

七宝焼の秘法を会得し、当地域に広めた先駆者としての功績を称え、組合が中心となり昭和37年に遠島の八幡神社境内に建立。



5 棒の手記念碑

秋竹の直心寺(じきしんじ)には梅村先生遺愛碑と棒の手祖先碑の二碑がある。棒の手は武術の一種で、天保の頃、愛知郡野田村(現名古屋市中川区)の梅村氏によって秋竹に伝えられた。



6 七宝焼原産地道標

旧佐屋街道(県道名古屋津島線)から遠島へ入る目印として明治28年に建立された。当時としては珍しく、上部に「shippoyaki Toshima」とローマ字で刻まれている。市指定史跡。



7 法光寺梵鐘(ぼんしょう)

元和4年(1618)遠江国周智郡(しゅうちぐん・現静岡岡袋井市)村松の神明社に久野城主久野丹波守宗成より寄進されたものだったが、明治維新の神仏分離により処分され、明治10年桂の法光寺に移された。市指定文化財。



8 桂の六地蔵

蟹江合戦で敗走し秋竹で割腹した武士の遺骨を引き取った僧が、その冥福を祈り刀剣等と共に葬ったという説と、法光寺の開祖が、父の卒去に伴いその墳墓の傍らに六地蔵を安置したという説の二説が伝えられている。



10 伊福郷之碑

伊福という地名の経緯やこの地に居住していたとされる伊福部連(むらじ)について記されている。明治22年に伊福部御厨(みくりや)旧地碑とともに伊福部神社境内に建立。



13 芳春院顕彰札(前田利家正室 まつ)

ここはまつ(のちの芳春院)の生誕推定地。まつは、篠原主計(かすえ)の子といわれるが、沖之島郷主林日開常信の子で篠原主計の養女となったという説もある。

9 廣濟寺

廣濟寺(こうさいじ)には市指定文化財の雲版(うんぱん)がある。銘により、尾張藩鑄物師頭水野太郎左衛門家の分家である水野平蔵家第7代矩達の作と考えられる。雲版は食事などの合図に打ち鳴らす禅宗特有の法具。



～条里制の名残り～

沖之島や遠島は、北の富塚や木折から続く条里集落の名残りといわれています。条里制は古代に行われた土地整理事業で、その土地の区画が90度の直角に区切られているのが特徴です。小字名に相当する地名に、拾の坪・八タチ・十六・九之坪・十坪・十八などの数字にちなんだ地名が存在するのも条里坪名の特徴といえるでしょう。